

(第 2 回日田市農業振興ビジョン推進委員会資料)

日田市農業振興ビジョン専門部会の協議経過について

【専門部会概要】

・主要施策ごとにこれまでの取組実績、課題に対する効果を踏まえ、現時点における現状や課題、その課題の解決に向け、今後の取組む内容について意見交換を行い、改めて従来からの課題や現状を認識するとともにそれぞれの分野ごとの農業振興が図られるよう見直しに関する協議を行った。

・専門部会は、生産振興部会、畜産・内水面部会、農村基盤部会とし、生産振興部会については、対象範囲が広いため、生産振興班と担い手班に分け、また畜産と内水面についても班分けを行い、第 1 回目を 6 月末から 7 月初旬に第 2 回目を 7 月末から 8 月初めに開催した。

【生産振興部会（生産振興班）】

開催 期日	令和 3 年 6 月 28 日（月）第 1 回生産振興部会（生産振興班）	出席者	8/10
	令和 3 年 7 月 27 日（火）第 2 回生産振興部会（生産振興班）		8/10
主な意見	I-1	新植・改植による園地造成、流動化の推進に関する意見 選果場の改修に関する意見 水田畑地化に関する意見 (3)	
	I-2	営農相談員等の栽培講習会に関する意見 良質米の取組に関する意見	
	I-3	津江地域野菜集出荷に関する意見(3) 他産地との差別化、土づくりに関する意見	
	II-1	都市圏で開催されるイベントの出展レシピの作成に関する意見	
	II-2	農産物の販路開拓・インターネット販売に関する意見	
	II-3	農産物の認知向上に関する意見	
	II-4	農産物の情報発信に関する意見 大丸アンテナショップに関する意見(3)	
	II-5	6次産業化・販路開拓に関する意見(2)	
	II-6	GAP 認証に関する意見(2)	
	V-1	農薬使用の適正管理に関する意見	
	V-3	土づくりに関する意見	
	VI-2	鳥獣害対策に関する意見(4)	
	VI-3	グリーンツーリズム・観光誘客・都市との交流に関する意見(3)	
		品目別推進に関する意見(9)	

【生産振興部会（担い手班）】

開催 期日	令和3年6月28日（月）第1回生産振興部会（担い手班）		出席者	6/8
	令和3年7月21日（水）第2回生産振興部会（担い手班）			6/8
主な 意見	Ⅲ-1	農地の借り手に対する支援に関する意見 農地中間管理機構を活用した農地のあっせんに関する意見		
	Ⅲ-2	集落営農の連携に関する意見 集落営農の取組の情報発信に関する意見		
	Ⅲ-3	新規就農者や後継者に対する支援策の情報発信に関する意見 新規就農者のサポート体制に関する意見		
	Ⅲ-4	企業参入に関する意見 法人化に関する意見		
	Ⅲ-5	営農指導員の育成・強化に関する意見 多様な労働力確保に関する意見		
	Ⅳ-2	農地の保全に関する意見(2)		
	Ⅳ-3	遊休農地・ハウスのデータベース化に関する意見 不在地主農地の取扱に関する意見		
	Ⅵ-1	景観作物の取組に関する意見(3)		
	Ⅵ-2	鳥獣害対策に関する意見(2) ジビエの商品化等に関する意見		

【畜産・内水面部会（畜産班）】

開催 期日	令和3年7月1日（木）第1回畜産・内水面部会（畜産班）		出席者	3/5
	令和3年8月2日（月）第2回畜産・内水面部会（畜産班）			2/5
主な 意見	I-4	輸入飼料の高騰、自給飼料に関する意見(10)		
	V-2	コントラクター、堆肥循環に関する意見(11)		

【畜産・内水面部会（内水面班）】

開催 期日	令和3年6月30日（木）第1回畜産・内水面部会（内水面班）		出席者	4/5
	令和3年8月2日（月）第2回畜産・内水面部会（内水面班）			4/5
主な 意見	I-5	生態系に配慮した河川等の整備に関する意見(5)		
		カワウ被害に関する意見(4)		
		販路確保に関する意見(4)		
		加工品に関する意見(3)		
		松原ダム、河川の水質に関する意見(5)		
		種苗の確保に関する意見(2)		

【農村基盤部会】

開催 期日	令和3年7月26日（月）第1回農村基盤部会		出席者	7/7
主な 意見	IV-1	水利に関する意見		
		進入路に関する意見		
		基盤整備のあり方に関する意見		
		ため池に関する意見(3)		
IV-2	水田畑地化に関する意見			
	農地保全に関する意見(2)			
	田んぼダムに関する意見			
		農地の多面的機能に関する意見(2)		
IV-3	離農に関する意見			



重点施策

- ① 担い手をサポートする拠点の立ち上げ
- ② 日田の風土に合った循環型農業の実現
- ③ 時代のニーズに応える日田ブランドの確立
- ④ 稼ぐ農業のための生産基盤の見直し

<専門部会の担当分野>

○・・・生産振興部会

◎・・・畜産・内水面部会

☆・・・農村基盤部会

日田市農業振興ビジョン専門部会での主な意見（生産振興班）

- 開催状況 6月28日（月）第1回生産振興部会（生産振興班）
7月27日（火）第2回生産振興部会（生産振興班）

主要施策Ⅰ－1 果樹・野菜・花卉・米等の安定生産と生産拡大（資P4、p P21）

新植・改植による園地造成、流動化の推進に関する意見

・梨リース団地が完了し、新しい園地ができた。入江地区において、市が主体となって畑地化事業を進めていただいたおかげで梨の生産振興につながっている。産地の若返りが日田梨の生産振興につながるのので部会で次の園地を進めていきたい。

選果場の改修に関する意見

・梨選果場が老朽化しているため、対策が必要である。

水田畑地化に関する意見①

・水田畑地化の事業対象について、2ha以上が対象であるが日田地域は狭い圃場で水田から畑地への展開がされている。個人農家でも畑地化に取り組む場合の支援策が考えられないか。

水田畑地化に関する意見②

・水田畑地化事業について、個人を事業対象とすることはできない。団体でかつ大規模面積で行うことが事業対象となるので理解いただきたい。
・にんにくを推進しているが、排水対策などをしないと難しいがかんしょの品目も可能と考えている。
・玖珠町は重点品目に里芋を推進しているが、日田ではにんにくを進めており、加工用としてニーズも高い。

水田畑地化に関する意見③

・水田畑地化について、ハウスだと良いが露地では盤を抜かないと水が溜まって作物がダメになってしまう。水田畑地化を日田地域で進めることは面積も小さいので厳しいと思う。

主要施策Ⅰ－2 地域の特性をいかした作物の推進（資P7、p P23）

営農相談員等の栽培講習会に関する意見

・営農相談員について、人員不足で対応できていない。

良質米の取組に関する意見

- ・日田米のブランド化に向けたネーミングを考えるなど、他産地との差別化を取り組むべきである。

主要施策 I - 3 産直野菜の生産拡大と出荷体制の整備 (資 P8、ヒ P24)

津江地域野菜集出荷に関する意見①

- ・津江地域野菜集出荷事業について、津江地域では車を運転できない高齢者の方が補助金の打ち切りを理由に出荷が困難になるとの意見を生産者から聞いた。JAから市の補助金が打ち切りになることで事業が無くなるとの通知もあったようだが、高齢者の生きがい対策にもつながっている。農業振興ビジョンで「山間地域における産直野菜集出荷体制の見直し」にもあるので、廃止ではなく継続する方向で津江地域の集出荷体制の支援を考えてほしい。

津江地域野菜集出荷に関する意見②

- ・津江地域では、高齢農家の集荷に対する支援がないと生産したものを出荷することができない。生産することはできても出荷する手段がないため、支援する体制が考えられないか。

津江地域野菜集出荷に関する意見③

- ・前津江地区は高齢化が進んでいるが野菜を作っても出荷ができています。5年後、10年後を見据えた生産振興の取り組みが課題である。

他産地との差別化、土づくりに関する意見

- ・木の花ガルトンの農産物の出荷量が足りていない。現状では、旧日田市の一部の方（200人以上）や津江地域、小国地域の方に出荷いただいているが、それでも量は少ない状況である。量を確保するため、エリアを拡大したが、範囲が広がった分、営農指導員の人手が不足している。また、直売所も福岡を中心に増やしているので、量を確保し、販売促進を図るためにも他地域との差別化が必要になっている。差別化を図るため、大山町農協堆肥のオネスト 250 を活用した土づくりや品質の向上について、大山町農協管内だけでなく、津江地域や旧日田市内の農家に対して活用いただくことが必要である。
- ・産直野菜について、大山以外に旧市内、前津江、中津江地区から出荷いただいているが時期によって数が足りない。
- ・品質を充実させるため、オネスト 250 をつかって地力を高め、高品質な農産物のブランド作りに取り組んでいきたい。

主要施策Ⅱ－１ 生産部門との密接な連携によるマーケットインに向けた取組の推進（資 P11、ヒ P27）

都市圏で開催されるイベントの出展、レシピの作成に関する意見

- ・葉わさびの作り方がわからないという消費者の意見が多い。レシピ等を準備して販売しているが消費者に調理方法を理解いただかないと購入につながらない。
- ・日田産農産物の認知を高めるため、テレビ等の即効性のある情報発信を考えてほしい。

主要施策Ⅱ－２ 百貨店・量販店・外食産業等のニーズに対応した販売企画・商品開発の推進（資 P11、ヒ P27）

農産物の販路開拓に関する意見

- ・大丸アンテナショップが閉店になり、都心部に農産物を売り込む拠点が無くなった。日田ブランドの認知を高める取組として、アンテナショップが必要と考えている。木の花ガルテンやマルキョウなど、農協取扱店舗もあるがアンテナショップは販売だけでなく、消費者に直接農産物を売り込む対面販売や、テスト販売の役割もあった。都市圏にアンテナショップを設置して、市が主体となってブランドを高める取組が重要である。
- ・市が主催するイベント等で対面販売を行ってきたので、売り場の確保も考えてほしい。

インターネット販売に関する意見

- ・木の花ガルテンの充実と合わせて、ネット販売に対する支援などをお願いしたい。

主要施策Ⅱ－３ 地域ブランドづくりとPR（各種フェアの開催等）（資 P13、ヒ P29）

農産物の認知向上に関する意見

- ・農産物の販路開拓と合わせて、テレビや雑誌等を活用して福岡都市圏に対する農産物の認知を高める取組を考えてほしい。

主要施策Ⅱ－４ 直売所を活用した地産地消・地産外消の推進（資 P14、ヒ P30）

農産物の情報発信に関する意見

- ・農業振興課公式 SNS で情報発信しているが、地元の方に農産物を消費いただくため、市報等を活用した情報発信を考えてほしい。

大丸アンテナショップの復活に関する意見①

- ・大丸アンテナショップが閉店となり、お客様からかなりの問い合わせがきている。福岡県内にある木の花ガルテンを紹介するが中心部がないなど、購入できないという意見があった。アンテナショップがあることで直接お客様の反応や商

品開発において意見が聞けていた。大丸ショップに行けば、日田産品があるという安心感があった。アンテナショップの復活を含め、福岡都市圏に日田産品が販売できる場所を考えてほしい。

アンテナショップに関する意見②

・アンテナショップを持つことは、日田市をPRするうえで大切なことであり、福岡都市圏に近いという利点をいかして対策ができればよい。

アンテナショップに関する意見③

・アンテナショップがあることで、福岡に日田の農産物が購入できる場所があった。農産物は市場出荷のため市内でも購入できる店舗が少ないため、消費者に対してどこで購入できるかをしっかり伝えることが重要である。

主要施策Ⅱ－５ 創意工夫で販路拡大を目指す (資 P15、ヒ P31)

6次産業化に関する意見

・わさびや山椒を活用した商品開発に取り組んでいる。6次産業化に取り組む支援を考えてほしい。

農産物の活用に関する意見

・消費者ニーズを把握するため、日田産農産物を活用した食事会や農産物を活用したメニュー等を考えてほしい。

主要施策Ⅱ－６ 農産物の輸出に向けた取り組み (資 P16、ヒ P32)

GAP認証に関する意見

・日田梨は、GAP認証を受けているため、国外で信頼が高く安定した取引につながっている。梨以外にぶどうなどの品目でも輸出を考えていくため、GAP認証を受ける取組を考えている。しかしながら、経費がかかるため簡単にはGAP認証を受けることが難しい。日田梨は部会が充実しているが、他品目は部会も小さく、地力がないので何か市で支援策が検討できないか。GAP認証について、国内ではイオンが先進的に取り入れているが、市内ではあまり浸透していない。今後GAP認証の取得は進んでくるので普及策について考えてほしい。

GAP認証、販路開拓に関する意見

・日田梨部会員でも少しずつであるがGAP認証の取得を進めている。GAP認証を取得することで日田梨は安心・安全であることをイメージさせることで日田梨ブランドの確立につながると考えている。

- ・日田梨ブランドの確立を目指すため、新規開拓による輸出拡大を考えてほしい。
- ・輸出拡大を進めていくため、保冷库の整備は部会でも重点課題と考えられている。

主要施策V-1 安心・安全な環境保全型農業の推進 (資 P26、ヒ P40)

農薬使用の適正管理に関する意見

- ・農薬の使用におけるドリフト対策の周知に取り組んでほしい。

主要施策V-3 土壌診断・分析の実施 (資 P28、ヒ P42)

土づくりに関する意見

- ・土づくりについて、オネスト 250 をつかった取組の推進をお願いしたい。

主要施策VI-2 鳥獣害に強い集落づくりの推進 (資 P30、ヒ P44)

鳥獣害対策に関する意見①

- ・他産地であるが、宮崎県で鹿の被害でわさびが壊滅状態となり、入荷ができなくなった。市のみでは量が不足しているため、鳥獣害対策について、支援策の充実を考えられないか。
- ・鳥獣被害が増えているため、被害を防ぎ安定した収量の確保・増産を考えてほしい。

鳥獣害対策に関する意見②

- ・農家が高齢化するとイノシシや鹿の被害がさらに増えてくる。市から防護柵の設置に対する補助があるが管理をしないと荒れてしまうため、課題解決が必要である。

鳥獣害対策に関する意見③

- ・病虫害対策はできているが、防護柵の普及ができておらず、アライグマも増加しているため、部会員でワナ免許の取得率を高めたい。梨は猟期以外に栽培されるため、有害駆除班しか捕獲できない。猟友会の縄張り意識が強く、新規の加入は厳しいので、地区ではなく部会で駆除班を編成するなど、部会で狩猟免許の取得を推進したい。

鳥獣害対策に関する意見④

- ・県では、狩猟免許の更新や新規取得の費用を無料にしてできるだけ多くの方に取得いたたけるよう推進している。

・地域でまとまって狩猟に取り組むことはとても良い。アライグマは箱ワナなどを定期的に配置して対策しないとイケない。園地に餌になるようなものを放置しないようにする必要がある。

主要施策Ⅵ-3 グリーンツーリズムの推進 (資 P31、p P45)

農業体験を通じた観光誘客に関する意見

・観光農園などの農業体験ができる場所が少なく、体験ツアーはうきは市にとられている。大山町では、梅のブランド化がされており、奥日田温泉うめひびきでは、梅酒や梅の加工品などを提供し、観光誘客につながっている。梅以外の農産物でも観光誘客につなげ、市内で購入できるような情報発信を行いブランド力を高めていきたい。観光誘客について体験メニューは重要な観光コンテンツとなっているので、農業体験の充実を考えていただきたい。

観光誘客に関する意見

・地産地消に関して、HITA-SHIKI project (日田式プロジェクト) で農産物を活用した商品開発に取り組んでおり、新たな取組として尺玉西瓜を使用した商品開発を行っている。日田パフェ企画では、市内カフェや飲食店で日田の農産物を使ったものを提供するなど、店舗を巡るクーポンを開発し人気の高い企画となっている。実際に観光誘客につながっており、日田の農産物のPRにつながっている。

都市との交流に関する意見

・グリーンツーリズムに関して、大山町農協は人との交流を図るため「五馬媛の里」に桜などに植栽したり、体験メニューとしてさつまいもを新しく植付している。また、秋の収穫に向けて古代米も植付、都市との交流体験を行ってきた。都市と交流できる機会をつくることを考えてほしい。

品目別推進 梨 (資 P43、p P51)

- ・園地の若返りを進めていくため、大苗育苗や流線型仕立てを活用した新栽培技術の普及を考えてほしい。
- ・消費者ニーズに合わせた新品種の導入を進めていきたい。
- ・災害に強く作業効率の良い園地の整備を進めている。

品目別推進 ぶどう (資 P44、P51)

生産拡大の現状に関する意見

・シャインマスカットの生産は増えているが、巨峰が減っているため面積規模は変わらない。農家数の変わらず、1戸あたりの面積も限られているため、今ある面積で生産を行っている状況である。

品目別推進 梅・スモモ (資 P46、P53)

・梅、スモモについて、市からの支援はあるが着果が思った以上に厳しく、出荷が伸びていない状況である。昨年11月に生産量の向上と合わせて、品種の選定や労働力の確保など、生産拡大に対する様々な問題について総合的に取り組むため「梅、スモモ再生プロジェクト」を大山町農協で立ち上げた。今後6年間かけて取り組む考えであり、6年後には1億円達成を目標に進めている。梅は順調に生産されているが、スモモは厳しい状況である。再生プロジェクトの情報を提供するの、農業振興ビジョンに反映していただきたい。

・梅・すももの共通する点で新植や改植の支援をお願いしたい。結実対策が1番の問題となっており、新しい品種の植栽実験も考えている。

品目別推進 えのき茸 (資 P43、P51)

現状に関する意見

・生産量が減少している。夏場は原菌が上手くできず、収量が少ないことが課題である。

品目別推進 わさび・山椒 (資 P50、P54)

わさびの振興に関する意見

・日田市がわさびの産地という認識が低い。宣伝することで消費者の購買につながるため、情報発信についても考えてほしい。

・わさび反収の増加や栽培技術の向上を考えていただきたい。

・農家によってわさびの成長差が大きいため、栽培講習会などを行って技術の向上をしていただきたい。

山椒の振興に関する意見

・山椒について、生産量より需要が大きくなっている。市でも山椒の振興に対して支援がされているが、生産拡大等の支援が考えられないか。現在、山椒の取引の問合せに対して、ギリギリの対応である。

・山椒についての生産増加や栽培講習会の充実を考えていただきたい。

品目別推進 ピーマン (資 P54)

生産拡大に関する意見

・販売もしっかりしている品目であり、玖珠町や九重町と一体となって連携していきたい。玖珠町には、ファーマーズスクールもあるので技術を学んで栽培を増やしていければと思う。

品目別推進 柚子 (資 P54)

柚子の支援に関する意見

・コロナ禍で売上が減少している。生産量は比較的にあるので支援を検討いただきたい。

品目別推進 クレソン (資 P55)

現状に関する意見

・出荷量が減少しているため、栽培技術やハウスの夏場の管理などの技術面での支援をお願いしたい。

その他

・事業実施について、前年度要望して事業決定、着手までに期間を要する。早く着手できるよう改善していただきたい。

・補助事業について、県や市が支援するため予算の裏付けが必要となる。早い段階で相談をしてほしい。

・数値データについて、両農協の合わせた数値で整理してほしい。

・感染症拡大による柚子胡椒の出荷量が減少している。スーパーなどの大きいところ以外の減少が大きい。近年ニーズが高いのは、OEMの依頼が多くなった。

日田市農業振興ビジョン専門部会での主な意見（担い手班）

- 開催状況 6月28日（月）第1回生産振興部会（担い手班）
7月21日（水）第2回生産振興部会（担い手班）

[主要施策Ⅲ-1]担い手の明確化と農地の集約（資P17、p P33）

農地の借り手に対する支援に関する意見

・農地の貸し借りをする中で、貸すほうには制度的にお金が出たりするが、借りるほうは何の支援もなく大変だと思う。面積が広がると金銭的に経営が大変な農家が出てくるので、支援を考えていただいたほうがいいと思う。

農地中間管理機構を活用した農地のあっせんに関する意見

・農地中間管理機構の役割により、実際手放している農地を早く登録して、その近隣に誰がいるのかを把握して、その方に案内するというシステムの推進。
・地域の中で、農地の賃借の話は当事者同士では難しいという状況があるなかで、中間管理機構の仕組みがあれば、その調整の必要がなくなるので、そちらを推進していければいいと思う。

[主要施策Ⅲ-2]集落営農の育成・法人化（資P18、p P34）

集落営農の連携に関する意見

・集落営農法人間の連携についても、苗つくりとか、作業が間に合わないときは連携して行うなどできているが、やはり近くだからできているという部分はある。旧郡部と旧市内の法人との連携になると厳しいと思う。

集落営農の取組の情報発信に関する意見

・集落の人が一つになって自分たちの農地は自分で守るという思いも出てくればいいが、そういう方はもう高齢化が進んでしまって、意欲もだんだんなくなってきているという現状があります。田んぼを作る人がいなくなって、農地を集落営農組織に預けたかったが、どこに連絡したらいいかわからなかったという方もいらっしゃいましたので情報を流すという取り組みも必要ではないかと思う。

[主要施策Ⅲ-3]新規就農者や農業後継者の確保・育成（資P19、p P35）

新規就農者や後継者に対する支援策の情報発信に関する意見

・様々な支援策があるが、農家にはこういった施策が届いているかどうかと考えると疑わしい。非常に理想的なことが書いていますが、やっている方にはこれが全然届いていないと思います。支援策の届け方というか、そういったところを考えてほしいと思う。

新規就農者のサポート体制に関する意見

- ・新規就農者のサポート体制が大事ではないかと思う。就農初期のうちにしっかりサポートしていくということは必要と思います。
- ・「栽培技術の指導」、「資金や経営」、「農地のお世話」など各分野の担当者をあらかじめ決めておいて、担当者が責任をもってサポートしていかないと、1年2年はあつという間に過ぎていきますので、せっかく来てくださった新規就農者に対して申し訳ないという気持ちもあります。

[主要施策Ⅲ-4]企業の農業参入等の推進 (資 P20、ヒ P36)

企業参入に関する意見

- ・農業参入企業は最低でも1千万、大きいところは1億～3億の売上規模を狙って参入を考えている。そういうところができる、地域の方の雇用にもつながるので、地域の活性化も図られるのかなと思います。また現地法人をつくりますので、その自治体に税金が落ちていくというメリットもあります。新規就農者も、いきなり独立就農をするよりかは、数年雇用をうけて技術を学んでからの独立のほうがスムーズですし、そういったメリットはあるのかなと思います。
- ・実現に向けた取組にある「企業への農地情報の提供」については、ぜひ残してほしいと考えています。企業が入ってくる時は、大きいところでは10ヘクタールの農地をほしがるので企業にとって農地情報は大事な事柄となっている。

法人化に関する意見

- ・農協さんに頼らず、自分たちでしっかり値段を決めて売っていけるような体制づくりができるような、しっかりしたリーダーがいないと農家の企業化もできないと思います。農協さんに世話をしてもらってスイカを売ってもらっているという現状の中では、企業化のメリットはないのかなと思います。

[主要施策Ⅲ-5]包括的な農業支援体制の強化 (資 P21、ヒ P36)

営農指導員の育成・強化に関する意見

- ・農協職員の育成について、入って2～3年目くらいまでの新人に対して、農協職員である以上幅広い知識が必要なので、そういう専門性のある学園みたいなものを開設できないかと県にお願いをしている。専門性に特化しただけの指導員でなく、裾野の広い対応が可能な職員の育成ということにも理解をいただけたのかなという気はしている。

多様な労働力確保に関する意見

・例えば、少しの空いている時間に稼ぎたい方とか生活の中で少しずつでも時間のある人を集めて労働力の確保ができたらいいなと思う。農家がやろうと思ってもできないので、これを担ってくれる組織があったら、おもしろいのではないのでしょうか。そういう人をうまく活用できれば、農業に興味を持つきっかけになるかもしれないし、定年後に農業をやってみようという話になるかもしれない。

[主要施策Ⅳ-2]優良農地の保全と有効活用 (資 P24、ヒ P38)

農地の保全に関する意見①

・日田は移住者が多いので、集落営農組織だけでは守りきれないと思いますので、移住者に田舎暮らしをしていただきながら、あまり利活用されていない農地を有効活用していただくような取組が出来ないかと感じています。

農地の保全に関する意見②

・新たな組織を作るのもいいが、既存の組織の活動強化や支援をして、集落単位で農地を守っていくというのも一つ追加していただきたい。
・災害に強い農業ということで、農家自身が農地を守るという危機管理意識の醸成をしながら水路や農道等の維持管理を自分たちで行っていくなども重要。

[主要施策Ⅳ-3]耕作放棄地の解消 (資 P25、ヒ P39)

遊休農地・ハウスのデータベース化に関する意見

・遊休農地のデータベース化はいいと思う。新規就農する場合もこういった遊休農地の使われていない農地を使ってやりたいという方もいます。また10ha以上の広大な農地が必要な企業参入等もありますので、広大につかえるような面積もデータベースの中にいれておいて欲しい。
・遊休ハウスの情報はデータとして積みあがってないとのことですが、今後関係機関と一緒に調査をしながらデータベース化をしておく、いざという時に、新規就農者等に情報提供できて、初期投資の軽減にも繋がる。

不在地主農地の取扱に関する意見

・荒廃農地の持ち主がわからないと、まわりの人がその農地に手がつけられないという問題。本当は使いたい方もいるのに、それもままならないというのが結構ある。法律が絡むので難しいとは思いますが、荒廃地の認定の仕方を少し考えていただきたい。

[主要施策VI-1]新しい田園景観づくりの推進 (資 P29、ヒ P43)

景観作物の取組に関する意見

・景観に配慮した作物の植栽の推進があげられているが、地域住民が一体となって、集落で農地の保全をしていくという事で、賛成します。ただ、これがお金になれば更にいいと思う。

景観作物を生かした経済効果に関する意見

・バサロなどに行くと、農産物などの直売所の近くにひまわりを植えて、わざわざひまわり畑にお客さんが入ったりしている。そういったお金が落ちる場所の近くで景観作物の取り組みをやると効果的ではないかなと思う。

表作に適した景観作物に関する意見

・レンゲが悪いわけではないが、最近では田んぼのシーズンがかわってきているので、レンゲを植えると、自分の米を植える時期を遅らせなければいけないという状況が生まれている。
・レンゲをもし植えるのなら、飼料米はあまり影響がでないと思う。今、作付が増えているので、非常に景観に寄与するのではないかなと思う。

[主要施策VI-2]鳥獣害に強い集落づくりの推進 (資 P30、ヒ P44)

ドローン等を活用した鳥獣被害防止に関する意見

・電気柵や防護柵の設置。集落のまわりにはりめぐらせてしっかり農地を守っていただきたい。山田原などスイカを作っているところに鹿やアナグマが出るが、ドローンに赤外線カメラやサーモグラフィを付ければ、暗闇でも感知できる。自動的にドローンが感知して追い払う、そういったことが将来できないかなと思っている。

防護柵の申請手続きに関する意見

・今年、大久保台という梅の密集した団地に柵を設置させていただいたが、申請時にすごく時間がかかった。農作業の合間を縫って振興局にいったが、なかなか申請が通らず、農作業に負担がかかった。今後は素早く対応していただけたらと思う。

HACCP や国産ジビエ認証によるジビエの商品化等に関する意見

・ジビエ料理を商品化して出してもやはり、上津江の処理場のように HACCP とか認証をとっていると、この商品ならいいと思うが、特にペットフードの場合、人間が食べるもの以上に、買う方がそういうところにこだわりがある。一度認めていただけるとニーズはあると思うが、なかなか認めてもらえないと聞いている。

日田市農業振興ビジョン専門部会での主な意見（畜産部会）

- 開催状況 7月1日（木）第1回畜産部会
8月2日（月）第2回畜産部会

[主要施策 I-4] 足腰の強い畜産業の振興（資 P17、ヒ P33）

輸入飼料の高騰、自給飼料に関する意見

- ・飼料の値上がりも問題である。輸入飼料の高騰が原因。豚価と飼料代については自分達ではどうしようもないので、草地に堆肥を撒くなどの循環の推進が必要である。
- ・現在のビジョンには「高止まり」とあるが、そういう状況でもなく、既に5年前よりかなり高い。
これまで海外産飼料が安かったので使っていたが、ここまで高くなると自給飼料に戻すかもしれない。
- ・飼料用米と食用米の田が混在している。飼料用米は消毒できないため、地域でエリアわけができると WCS 等の推進にもつながるのでは。虫害が増えれば耕作を止める人も増える。

自給飼料率の向上に関する意見

- ・国・県は WCS を推進してきたが、酪農家がフル活用できるわけではない。
- ・自給飼料率の向上が必要であると感じるが、機械等の問題がある。土地自体は意外と空いている。
- ・トウモロコシでロールができれば TMR センターが買い取ると思うが、安定供給できるかという問題もある。
- ・酪農組合でも粗飼料について話し合う。農業者の高齢化もあり、田畑の管理の問題もある。
- ・自給飼料生産については飼養頭数が 40～60 頭規模が一番取り組みやすく、100 頭を超えると難しくなるが、日田にはその規模以上の酪農家がほとんど。そこにどれだけの労力を使えるか。WCS についても「乳牛の餌ではない」との声も出た。

輸入飼料高騰、自給飼料、たい肥循環に関する意見

- ・自給飼料に目をつけても良いのでは。岩見氏などは既に取り組んでいる。
- ・WCS について乳牛の餌に適していないとの声があるという話が出たが、育成段階により一日に〇〇kg までという適正量があり、それ以上を与えると育成・繁殖成績に悪影響が出ることはある。他飼料と混合させて使うものなので、WCS のみで良いということではない。

[主要施策V-2]地域循環を目指した環境にやさしい農業の実現 (資P27、P41)

コントラクター、たい肥循環に関する意見

・酪農家側が堆肥を作っても運搬、散布を行える担い手がない。日田アグリ㈱等のコントラクター組織が通年儲かるシステムを作られればよいが。作り手、使い手はいるので、その間の人材不足が問題。堆肥処理の問題があると規模の拡大も難しくなる。

・夏場はある程度はけるが、冬は溜まりやすい。堆肥の質の問題もある。欲しいものも農家によって異なるだろう。

・堆肥については酪農家としては作物別に質を変えて生産するのは難しい。また、質が大事なのももちろんだが、扱いやすさも重要であることから、文言に追加してはどうか。

・にんにくやピーマンなど、堆肥を大量に使う作物を推進してみてはどうか。

・市内だけで全てを使うのは難しい。広域流通も考えてみては。

・時期が合えばはけ口はあるのだが…。処理能力以上に規模を拡大してきた経緯がある。

・出すしかないと思うが、そこに手間をかけられる農家は多くない。さらに統一の規格がないので、乾いていればいい程度の認識しかない。堆肥の成分まで気にする酪農家はあまりいない。水田ならともかく、作物によっては成分次第で嫌がられるだろう。

・耕種農家と畜産農家との結びつきが重要になる。堆肥の施用自体は有用だが、労力と見合うかどうか。畜産農家も堆肥の生産はできても運搬・散布まではできないところがほとんど。そこをどうマッチングできるか。耕種農家がどう考えているかも重要。運搬費まで考慮した場合、畜産農家の考える価格と耕種農家の考える価格に差が出ると思うので、その部分に補助することはできないか。

・堆肥の一時置き場となるストックヤードの問題もある。質が悪いと悪臭発生の要因にもなりうる。天瀬、塚田の酪農家はペレット堆肥を活用し、使いやすさの向上を図っている。一つの手段だとは思いますが、売り先の確保と労力の問題はある。堆肥処理については大規模農家は対策出来ているが、小規模農家は難しい。

たい肥循環に関する意見

・即効性があるわけではないので、使う人を選ぶ。敬遠する人も未だに多い。

・堆肥の焼却もできないか。乾燥が必要等の手間はかかるが売りやすくなる。

日田市農業振興ビジョン専門部会での主な意見（内水面班）

○開催状況 6月30日（木）第1回畜産・内水面部会（内水面班）

8月2日（月）第2回畜産・内水面部会（内水面班）

[主要施策 I-5] 内水面資源の維持と活用（資 P10、ヒ P26）

生態系に配慮した河川等の整備に関する意見

・水害等の天災に対する支援が、農業に比べて非常に少ない。我々にとっては河川すべてが畑みたいなものだ。市議会で井上市議が話していたが小野川の災害復旧も淵や瀬がないため、魚の生育できる環境にならない。流れもまっすぐなため石が流れてしまい、どこかにたまっていくことになる。

生態系に配慮した河川等の整備に関する意見

・石井の三隈川沿いにゲートボール場があって、そこに土砂が堆積していた。重機を入れて土砂を撤去し、復旧したが魚が住めるような造りになっていない。

生態系に配慮した河川等の整備に関する意見

・河川の復旧の時に砂利や石を持って行ってしまう。砂利や石も魚の生育に必要な資源なので、市の条例でどうにかできないのか。また、石を置くように話しても大きな岩をいくつか置くだけで、魚の生育に必要な環境にはならない。他所にもっていったり他所からもって来たりするのではなく、自然にしておけばいい。

事務局

・河川の管理は国や県のため、直接市が対応することはできないが、皆さんと一緒に意見を伝えていく。

生態系に配慮した河川等の整備に関する意見

・小野川の郵便局より上流でキャッチアンドリリース区間を整備しようと思っている。私見だがかなりの量を放流する必要があるのではないかと考えている。工事によって自然の溪流の形が失われている。

生態系に配慮した河川等の整備に関する意見

カワウ被害に関する意見①

・工事に入る前に土木が設計しているが、土木の方も生態系に適した施工が何なのかを勉強する機会を設けさせないと難しいと思う。

指標を見ると令和 2 年度に生産量が落ちているがこれを見直さないといけないと思う。日田の川は遡上がないので放流が命綱になる。放流のやり方やプラスアルファについての助成について、日田市が施策としてどこまでできるのか検討していただかないといけないと思う。

カワウ対策についてだが、昨年、一昨年と内水面漁協の関係で補助金が下がったことでカワウの被害額が増大している。鳥獣害対策の中でカワウについて書かれているが、生産振興のなかでもカワウ対策について記載していただくと思う。

カワウ被害に関する意見②

- ・カワウ対策で追い払いをしているが一時的なもので、すぐに戻ってきてしまう。駆除しないと結局カワウは減っていかない。

カワウ被害に関する意見③

- ・大学の先生からドローンで駆除していくのが効果的と聞いた。国内では琵琶湖などで取り組みが行われている。ドローンならば人間が対応できない場所でも駆除ができる。

カワウ被害に関する意見④

- ・ドローンで農薬散布などによる駆除が可能かどうかはこちらでも確認をしてみる。一昨年玖珠の慈恩の滝の向こうくらいでコロニー駆除を行ったが、時間が経つとまた増大してきていたちごっこになっている。なんらかの対策は鳥獣害の対策班も含めて検討していかないといけない。

補助について、これまでの国庫補助がなくなり、手出しが発生している。日田市もフォローアップしていると思うが、国並みとなると結局国の補助を使えということになってしまうため、異なる基準で行っている。はっきり言ってしまうと県の水産の予算でも沿岸漁業に比べると内水面の予算規模というのは小さい。日田は他市町村に比べると内水面漁業に力を入れている方だとは思いますが、厳しい状況にあるというのをご理解いただきたい。そのうえでビジョンの中で具体的な施策というのを考えていかないといけない。

販路確保に関する意見①

- ・コロナの関係で出荷量が大幅に減っている。それでも魚に餌代や電気代などで維持費がかかる。昨年は給食で使ってもらったが、ホテルや魚市場にも鮎やヤマメが出ていかない状況が続いている。生産量を減らして対応している業者もあるが、コロナが落ち着けばまた出荷していかないといけないので難しいところ。予算がつけばまた学校給食などで使っていたきたいと思っている。

販路確保に関する意見②

・販売について、我々もいろいろと作っていかないといけないと思っているが、モロコが動いていないのでご協力いただきたいと思っている。せっかく生産できる体制ができているのでなんとかしたい。鮎についても、福岡都市圏への販路開拓は需要があればどうにかするので引き続きご協力いただきたい。

販路確保に関する意見③

・コロナの関係で夏場の観光需要が減っている状況があるので販路開拓は行っていないといけない。

販路確保に関する意見④

・一度関係が切れるとそのままになってしまうので販路の維持は行ってもらいたい。

加工品に関する意見①

・モロコは何かいい案はあるだろうか。金額については下げられるのではないかと思ひ、今試算しているところ。とにかく値段を下げてでも販路を広げていかないといけない。

加工品に関する意見②

・うちも甘露煮や唐揚げ、南蛮漬けなど加工品もいろいろやっている。人件費はかかるがコロナで出荷が減っているなか、加工品にだいぶ助けられた。

加工品に関する意見③

・加工で2人ほど人員を確保しているが、どういう風にしていくのがいいか思案中。

松原ダム、河川水質に関する意見①

・松原ダムの関係はどうか。水質が悪化してきている。このような状況で豊富な水資源があるとはいえない。河川に流れている水も日田市の自由になる水とはいえない。

事務局

・環境課が所管している三隈川・大山川の再生委員会があり、漁協も入っていたいでいる。国交省や九電、市も入っているのでそういう場で発言していく必要がある。

松原ダム、河川水質に関する意見②

・放水量が少ないから苔が増えるし水温も上がる。そのせいで魚の育ちも悪い。

河川水質に関する意見③

・河川に流れている水も国交省や九電が持っているのも市からも動いてもらわないとどうにもならない。市からも後押しをしてもらいたい。

事務局

・水利権の見直しのタイミングがあるのでその時に市民運動などで署名をとるなどして働きかけていく必要がある。

河川水質に関する意見④

・年々河川の水質が悪くなってきていることを関係者みんなにわかってもらわなければいけない。水量を増やしても松原ダムの水がよくないので意味がない。

事務局

・日田でも再生委員会をやっているの中で漁協にも主張していただきたい。環境課にもこちらから伝えておく。

河川水質に関する意見⑤

・高瀬川の清流バイパスができていますが、農業用水に取られているため下流の水量は増えていない。そのことはわかっていてもらいたい。

事務局

・今日の内容をまとめると河川環境の関係で土木工事等の関係で考慮していただきたいということ、遊漁振興等の観点からも稚魚や成魚の放流量を増やしていかないといけないこと、そしてそれに関連してカワウの駆除の必要性、また漁協が小野川でキャッチアンドリリース区間を整備しようと思っていることもお聞きした。コロナの関係では養殖業が今非常に厳しい状況にあるため、加工品の開発や販路の開拓は引き続き行っていかなければいけないといったことを皆さんからご意見いただいたと思います。

種苗の確保に関する意見①

・ワカサギの卵の件だが、今年は手に入らない。全国的にみてもワカサギが釣れる漁協は収入が大きい。ぜひ入手方法を確保してほしい。

種苗の確保に関する意見②

・茨城の霞ヶ浦が相当とっていると聞いている。

日田市農業振興ビジョン専門部会での主な意見（農村基盤部会）

○開催状況 7月26日（月）第1回農村基盤部会

[主要施策Ⅳ-1]生産基盤として有効な農地確保や農業用水施設の整備・更新（資P22、P37）

水利に関する意見

・中・上津江で作業受託しているが共同の水利がないので水の管理に苦慮している。

休耕地を減らそうとしているが水路の関係で手がでない状況であるため最低でも2から3人位の共同水利として管理できるようにしてもらいたい。

進入路に関する意見①

・進入路の拡張ができる事業があるといいと思う。

原材料支給が進入路の拡張等に使えると便利。

中津江は、特に進入路が狭くて軽トラも入らない状況で厳しい条件の農地ばかり。

山間地の農地に限って条件緩和ができないだろうか。

進入路に関する意見②

・農作業の受委託の際、農地への進入路が狭くて大型機械が入らない。

大型機械が入らなければ農地は荒れていくので進入路の拡幅が必要。

問題は、進入路と水と畔である。

基盤整備のありかたに関する意見

・販売ルートや何を栽培するかを決めてから基盤整備をしないと、先に基盤整備をして何かを作ってくださいとはならない。

・水田畑地化をなさいといった流れになっていて、ほ場整備をするには整備面積の20%以上畑地化、5年以上の契約を50%以上しなければ認められない。

県の方針では中山間地の小さな農地は切り捨てなさいということになっている。

ため池に関する意見①

・ため池については、受益が少ないけれど防災・減災の観点から整備は必要。

ため池に関する意見②

- ・ため池についても整備をすすめ事前放流等で災害の抑制につとめる必要がある。
- ・千倉ダムは、国交省と協定をしている。

ため池に関する意見③

- ・千倉ダムでは、事前放流を現在行っており水門の改修を行うこととしている。

[主要施策Ⅳ-2] 優良農地の保全と有効活用 (資 P24、ヒ P38)

水田畑地化に関する意見

・狭地直ししても水田では成り立たないので、ハウスとかの施設園芸をやるようにしなければならない。

守るべき農地とそれ以外の農地とは分けて考えないと担い手がいないなかで耕作放棄地を整備していくのは無理がある。

販売に関する意見

- ・県がいろんな作物を推進してくるが、販売ルートがないから JA 等が販売ルートの政策をしてもらいたい。販売ルートがないと新規就農者もやっていけない。

農地保全に関する意見①

- ・津江地域などは中山間直接支払いなどをつかって維持管理くらいしかない。保全していくのも厳しくなっている。

農地保全に関する意見②

・山間地の担い手は今受けてる農地を守るのが精いっぱいなかなか広げられない。

作物に何らかの付加価値を付けられれば狭い農地でもいいのだが。

田舎の方では、基盤整備しても法面が増えて草刈りなどの管理の負担が増えるのでやりたくてもできない状況がある。

それでも機械が入るところはやっていかないといけないと言うことで農林支援センターと話をしながら作業をやっていっている。

田んぼダムに関する意見

- ・田んぼダムについては、多面でやる方向である。
雨水の流出のピーク量を抑制する取り組みである。

農地の多面的機能に関する意見

- ・中山間とか多面とかで施設の小規模な整備をしていくしかないのか。
振興局とかで事務局を引き受けてくれると助かる。
- ・農業の衰退は、農業者だけの問題ではなく農業が有する多面的機能である「雨水を一時的に貯めて洪水を防ぐ」等の防災機能の役割が崩壊すると、市民生活に影響を与え、本市の産業振興、環境保全、防災対策、健康福祉、文化の継承などにも大きく影響する課題です。

農業には、食糧その他の農産物の供給の機能以外に多面にわたる機能があることを市民の方々に広く認識してもらい、将来にわたり農地を保全する必要があることを理解してもらいたい。

[主要施策Ⅳ-3] 耕作放棄地の解消 (資 P25、ヒ P39)

離農に関する意見

- ・市内では、自分の代で農業をやめるとか機械が壊れればやめるとった人が多い。

町中の農業は、草刈りすることもシルバーに委託して刈ってもらっている状況だったりヘリ防除も苦情等で農業がやりづらくなっている。